

Cross-Laminated Timber

未来をつくる木のイノベーション

Cross-Laminated Timber

Pioneering Innovation
in Massive Wood Construction

フォトレポート

Photo Report

7月24日(土)から「CLT—未来をつくる木のイノベーション」展を開催しています。
会場の様子と見どころをお伝えします。



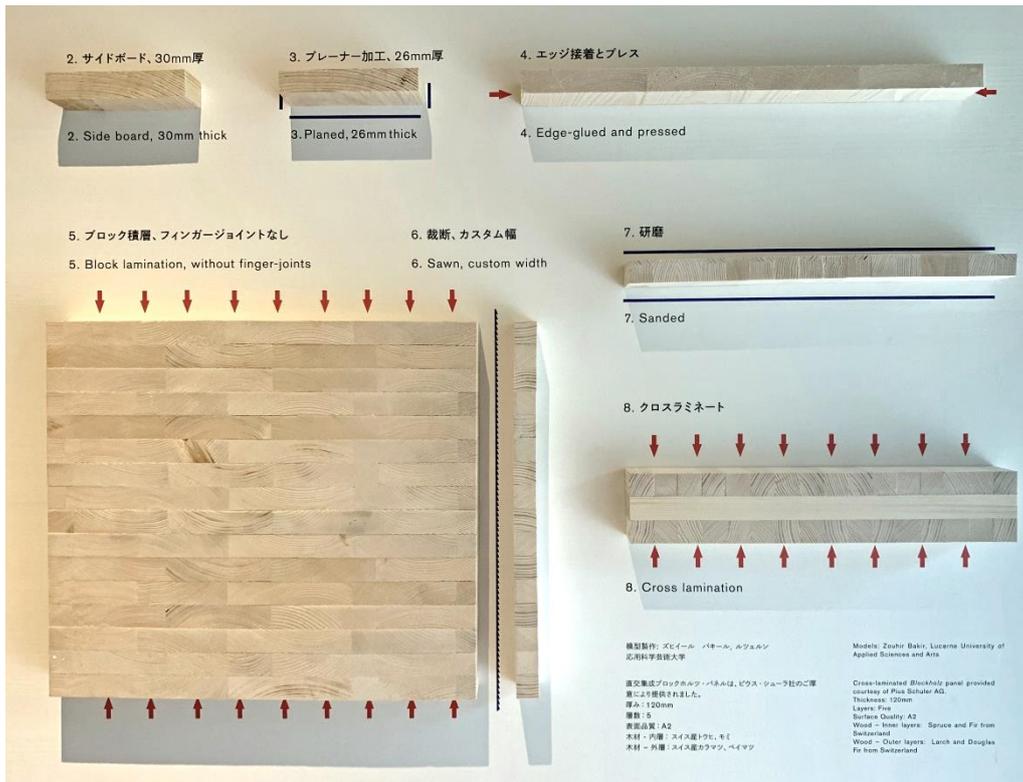
CLT とは、集成材のひとつで、小さな板を直交して重ねることで、厚く大きくしたものです。そうすることで、建物の構造材にも使えるようになり、燃えにくくもできます。未来の建築材料として期待されています。



1990年代の初め頃ヨーロッパで、捨てられてしまうことの多い丸太の辺材を活用するための方法として開発されました。



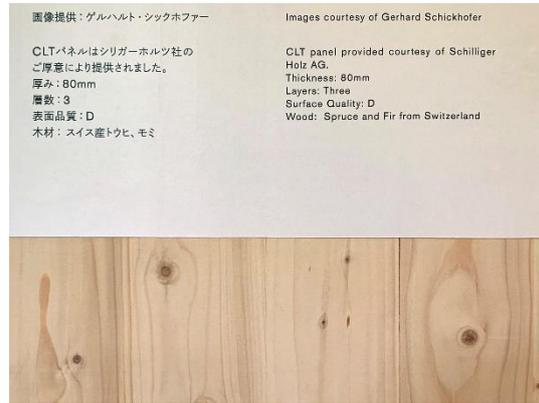
本展では、当時の工法からご紹介しています。



展示パネルは、展示内容と合わせたスイス、オーストリア、ドイツの CLT パネルを使用しています。パネルの内容は別途公開していますので、あわせてご覧ください。



ヨーロッパの CLT は、用途に応じていろいろな品質の材料を使い分けています。写真では分かりづらいのですが、とても美しい木肌を活かしたパネルです。是非、会場でご覧ください。



最初期の CLT 実験住宅プロジェクトを模型とともにご紹介します。

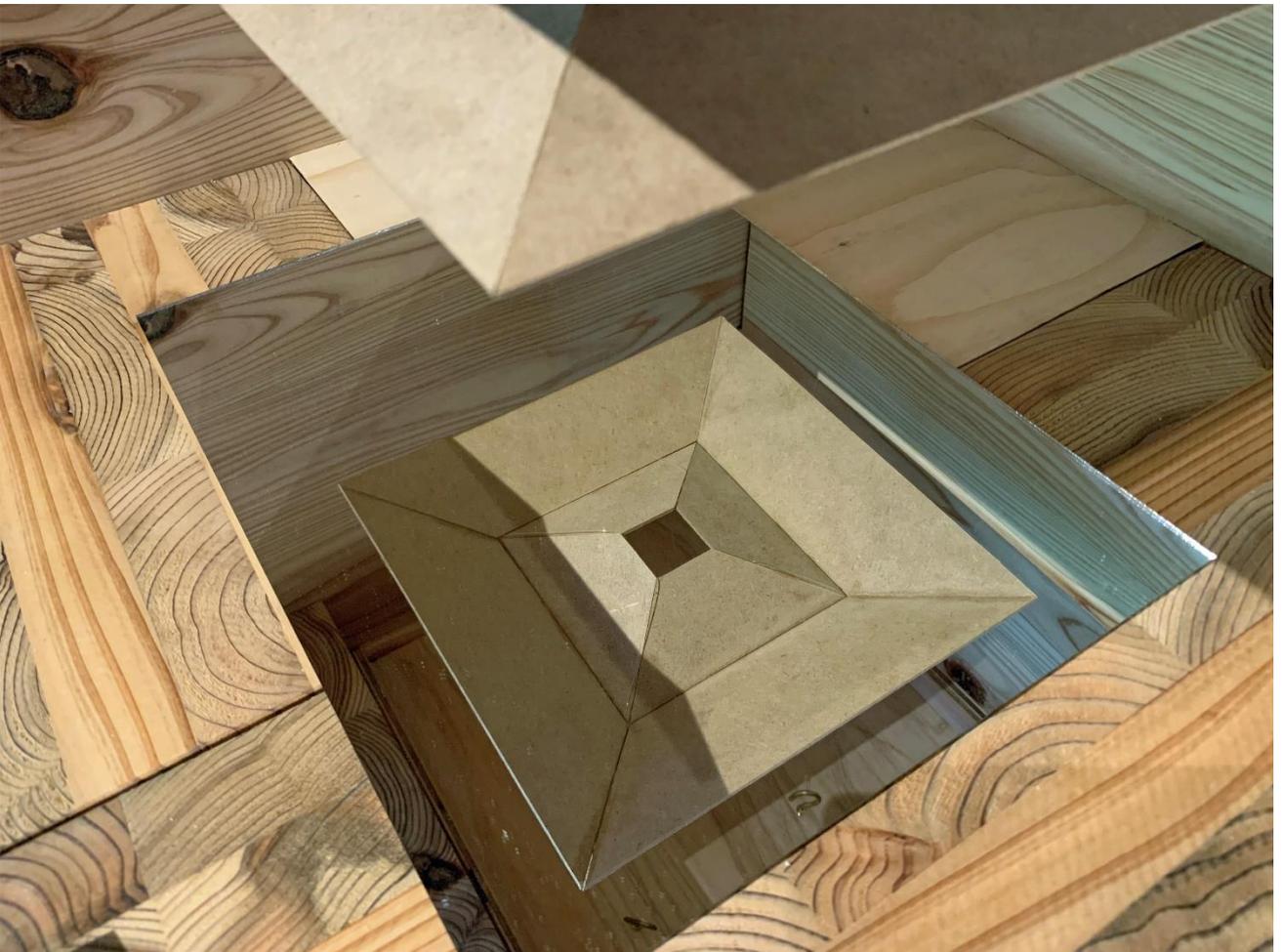






日本の CLT 建築の開発史は日本の CLT でご紹介します。模型とともにご覧ください。もっとも厚い 270 mm から一番薄い 36 mm のものまでを使っています。通常、CLT は金具を使って組み立ますが、日本では木組でつくる技術も使われます。





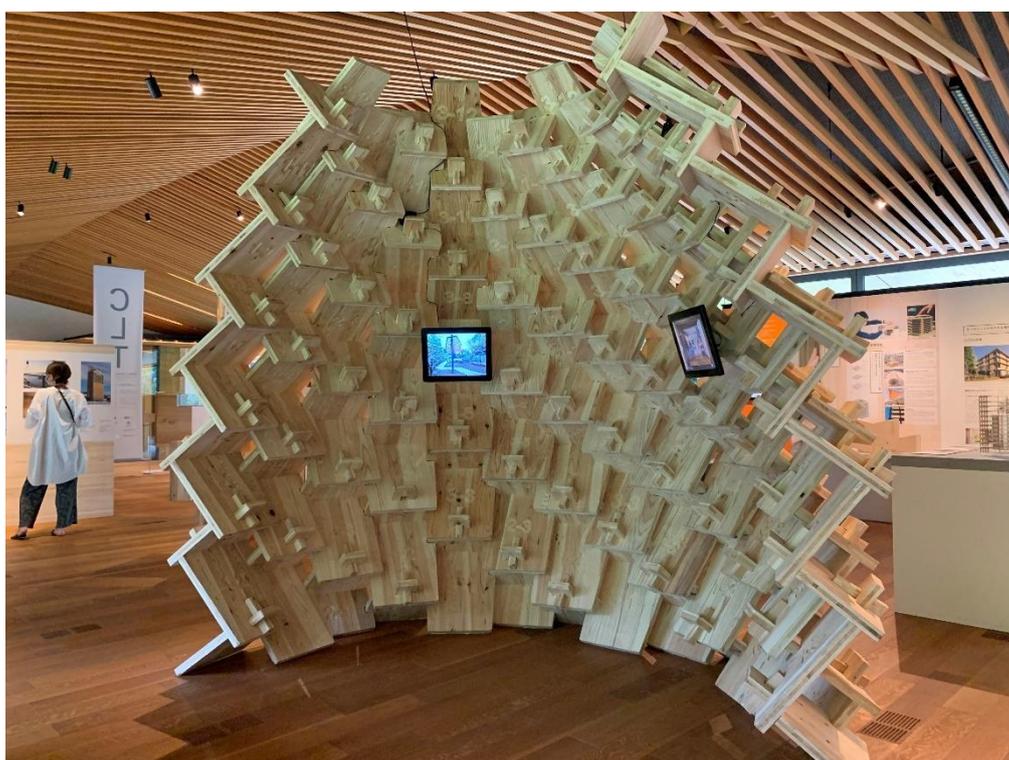
無人野菜販売所の展示です。可愛いだけでなく、最新の技術で作られています。



左手は金物を一切使わずに木組だけで組み立てた CLT パビリオンです。



裏手に回ると、ド迫力の空間になっています。



設計者による作品紹介と、同様な木組の事例もご覧いただけます。



CLT を分かりやすく紹介するビデオや技術紹介パンフレットなどご覧いただけます。



日本の最新の事例を「いまなぜ木造建築なのか。」を考えることをご紹介します。



木を組み合わせる技術を応用した CLT の事例をハンズオン展示でご紹介します。





CLTパネルと鉄筋コンクリート構造との接合では、液状部分にコンクリートを充填することで両者の一体化が図れます。

CLT

複雑な混構造の事例も、アクリルとベニヤを使い分けたスタディ模型で分かりやすくご紹介します。



森林資源を活かしたまちづくり「日本の森は、可能性の宝庫だ。」のお話をご紹介します。



こんなキノマチが実現できたらいいですね。



